



三カ所城及び岐阜城の位置関係

「東美濃三カ所城」の調査

岐阜県立関高等学校地域研究部

一戦国期の国衆と城下町を考える一

森翔吾 渡辺俊太 岩原知哉 神山諒成 佐藤孝亮 土本徳哉

はじめに ～馬廻衆と城、織田政権の矛と盾～

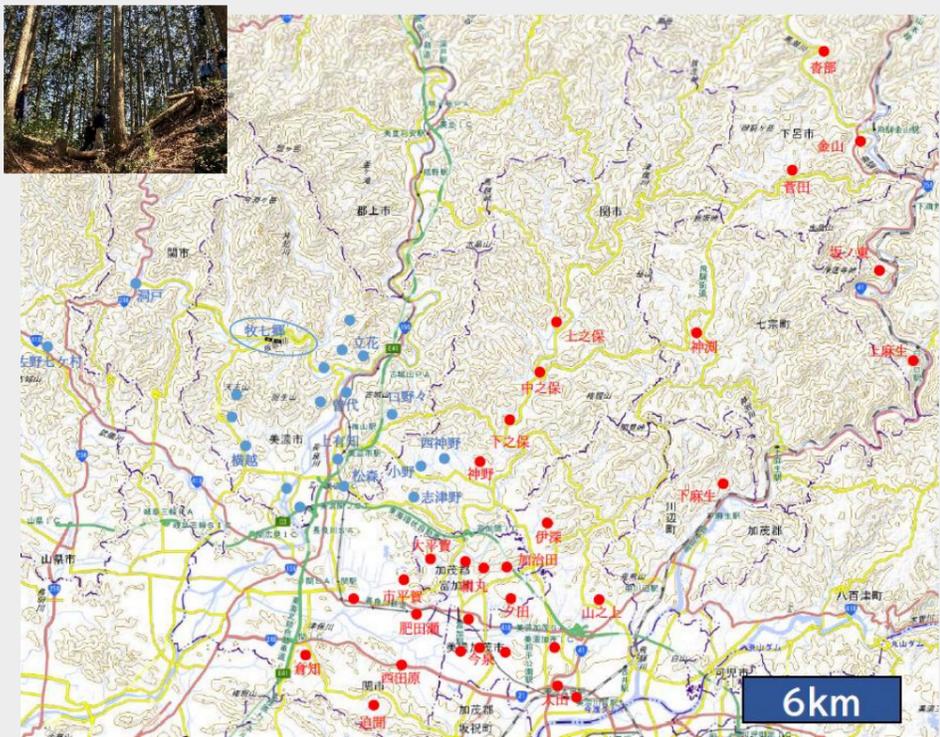
信長最大の危機と呼ばれる元亀争乱(1570-73)。その最中、馬廻衆として信長父子を支えた二人の武将、斎藤新五と佐藤秀方。近江・畿内を信長父子と駆け回った彼らは、東美濃(現在の中濃地方)の領主でもあり、北方から迫る武田の脅威から織田領国の北辺を守る防波堤の役目も果たした。東美濃三カ所城とは、彼らの統治下に置かれた城のことであり、敵方にも十分認知されていたことが知られている(勝興寺宛浅井長政書状1573)。特に、元亀争乱において、浅井・朝倉と武田をつなぐ経由地の役割を果たした郡上遠藤氏を監視する役目を担っていた。

1. 活動内容 ～山城・城下町の踏査と比較～

昨年度以来、自治体史や古地図等を参考に、各地の山城や城下町の踏査を行った(下写真:津保城測量調査の様子)。また、記録や古地図、地形、地名、伝承、踏査の知見を参考にし、三カ所の城下町や領内の地図を作成し比較研究を行った。

2. 加治田領と上有知領

宛行状や地誌を参考に、新五の加治田領を赤、秀方の上有知領を青で復元した。記録によれば、加治田は6573貫(約1万9千石)、上有知は約5千貫(約1万4千石)であったという(下写真:加治田領最北端、船野城。遠藤氏との古戦場)。



加治田領 ～加治田と津保、ふたつの城下町～

新五は、加治田を中心に、津保川流域及び飛騨川右岸の山間地から美濃加茂・関にかけて支配した。

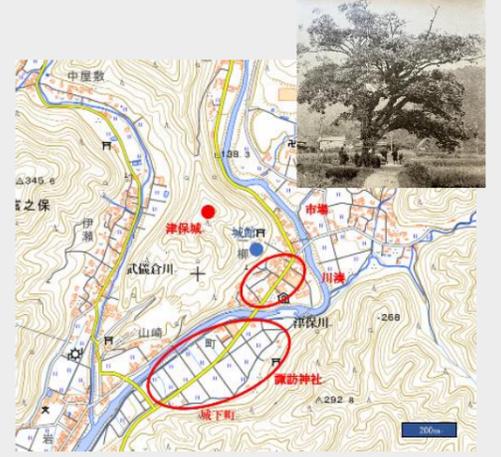
加治田城 加治田は稲葉山城下から関を抜けて、飛騨川



流域へと向かう飛騨街道の宿場町でもあり、城下には東西二つの城館があった。西側城館の西辺土塁の残りはよく、2m以上の高さを保つ(上写真)。付近には土器・陶磁器片の散布も見られる。東側城館は、西側城館より規模が小さいが、平地から2m以上高い高台に位置する。津保川沿いにある船着場跡は、川湊の有力候補地となり得る。**津保城** 大洞城とも呼ばれ、本城の加治田城に匹敵する城下町を有する。『遠藤記』に登場する船野城(上写真)や神戸城はその支城であろう。津保川沿いを通る飛騨西街道、支流の武儀倉川沿いを通る郡上街道の追分に位置する。山麓には二段の曲輪を有する大規模な城館跡があり、対岸にも城館伝承地(15世紀末～16世紀半ば)が存在する。城下町跡には、町・殿町・牢屋などの地名が残されているほか、圃場整備が進むまで、井戸跡が24カ所残っていたという。城下町



北端に貯木場、さらに北に榎の巨木があったことが知られ(右写真:『富之保村誌』1925)、それぞれ川湊、市場であった可能性が高い。美濃国では楽市場の守護神に榎を祀る習俗があり、この榎もその事例であったと考えられる。城の郡上街道に面した側に竖堀が5本設けられている。織田に臣従しつつも、武田と内通していた郡上遠藤氏への対応であったと推察する。1578年、信長の命を受けた新五は、月岡野の戦い(越中)で上杉軍を破った。津保城は越中攻めの兵站基地として重要だったと考えられる。

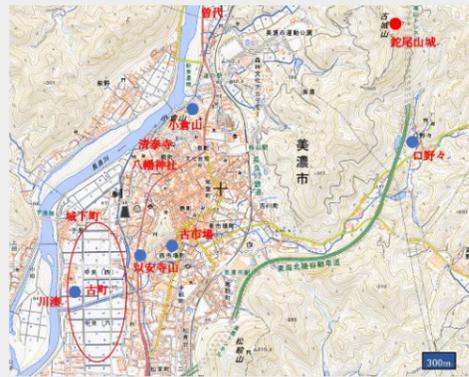


上有知領 ～移転ではなく拡張～

江戸初期、金森長近が、水害を避けるため古町を捨て新城下町を建設した話が知られているが、今回の調査で、すでに佐藤氏が複数箇所に拠点を広げる新都市構想を実行していたと考えるにいたった。



鉈尾山城 佐藤氏三代の城で、長良川や郡上街道に面する要衝にある。初代城主清



信は、水害に遭いやすい河川沿いの低位段丘上に城下町を築いた。河川交通や商工業振興を重視したものと思われる。長良川支流の余取川をさかのぼると古市場にいたる。合流点に川湊があったと考える。江戸期の地誌によれば、佐藤氏がおよそ半世紀の間に、低位段丘上の古町から丘陵上に向かって都市域を拡大したことがわかる。特に三代方政は、水辺に位置しつつも安全な小倉山に自身の城館を移し、曾代・段・口野々・鉈尾坂に「家中屋敷」を置いたとされる。中でも、鉈尾山の南に位置する口野々は、東方の津保方面の連絡口としても重要である(上写真:口野々からみた鉈尾山城)。上記の拠点を地図に落とすと、南に古町、東に口野々、北に曾代が配されていることがわかる。その中心というべき場所が小倉山麓の城館なのであろう。方政の城下拡張は、遠藤氏が豊臣秀吉に屈服し、北の脅威が消えたのちのことである。

3. 山城・城下町・領地を比較する

城下町の比較

	山城	城館	市場(推定)	川湊(推定)	河川・水系	陸路(峠まで)	城下町の長軸(推定)
上有知(美濃市)	鉈尾山城 曲輪-石垣-虎口	5カ所 隠居館を含む	2カ所	1カ所 余取川	長良川 岐阜まで舟で3h	19 km	1・2 km以上
津保(関市)	津保城 曲輪-石垣-竪堀	2カ所 伝承地を含む	1カ所	1カ所 貯木場	津保川 長良川支流	35 km	0・5 km以上 対岸にもあり
加治田(富加町)	加治田城 曲輪-虎口-竪堀	3カ所 隠居館を含む	不明	1カ所 船着場	川浦川 津保川支流	16 km	0・5 km以上

※上有知湊から岐阜湊町まで川舟で3時間、遡ると9時間(1881年の記録)

交通を意識した立地、山城と城館の関係、岐阜城との連繫、城下町と商業振興等、三カ所の城下町には複数の共通点がある。一方、町の規模や城館・支城の数には相違もみられる。廃城後も商業地として存続した加治田や上有知と、農村と化した津保の対比も興味深い。相違点に関しては、地理的環境のほか、政治的な事情も考える必要がある。同じ馬廻衆、国衆であっても、斎藤・佐藤両氏の間、役割や処遇に一定の違いがあったのかも知れない。

まとめにかえて

この1年間、山城や城下町を幾度も訪ね歩いた。休日の成果を地図に反映させる作業は、作り直しの連続で大変だったが、楽しいひと時でもあった。峠越えや川下りの実験的検証、ドローン撮影、遺構測量も含め、今後も研究を継続していきたい。(右写真:長良川水運の検証)。



協力:関市文化課 富加町教育委員会 アースシップ SeaLandSky Office
参考:『富加町史』史料編(1975) 同通史編(1980) 『美濃市史』通史編上(1978) 同史料編(1979) 『武儀町史』(1992) 『上之保村誌』(2000) 『富之保村誌』(1925) 『八幡町史』通史編(1984) 『夕雲の城』(2021・資料集) 『岐阜の山城ベスト50を歩く』(2010) 『東海の名城を歩く』(2019)